

Oracle DB ライセンスたな卸しサービス

“知は力なり”

交渉するためのコンプライアンス状態の正確な把握

Oracleライセンス契約は、世界市場で「最も複雑なライセンス契約の一つ」と言われています。その理由は、複雑な契約書の構成、エディション、ライセンスメトリクスによる運用制限、Ordering Document で設定される契約条件により異なる様々な制限、各システム単位・部門・組織単位で保有する多数のライセンス契約書などがあげられます。

すべての契約書、Ordering Documentなどで構成される契約条件を正確に把握し、自社環境におけるOracleライセンスの運用状態を正確に把握することで、本当に必要とされるライセンスを把握することが可能となります。

把握できていないとどうなるのか？

- ① 最も高額なライセンスを購入することになる
- ② 不要なライセンスを購入することになる
- ③ 監査において最も高額、不要なライセンスを購入することになる

「監査対策」は、ライセンス契約書、Ordering Document の管理が不可欠

基本的な契約書の内容に差異はありません。しかし、契約書内で定義される「制限」は、ユーザー毎に異なります。契約交渉の能力がある組織では、制限を自社に有利な条件で獲得していますが、契約交渉の能力がなく、代理店の勧めるままのライセンスを発注している組織では、「制限」が多く、リソースプールとして利用不可能なライセンスが多くなります。

自社戦略がないと、ベンダーの戦略に対して無防備になる

ベンダー各社のアプローチは非常に戦略的になっています。スタンダード版、エンタープライズ版など異なるエディションやProcessor、NUPなど異なるライセンスメトリクスを戦略的に契約し、運用しないと、ベンダー主導の統合やマイグレーションを余儀なくされます。このような統合やマイグレーションは、より高額なライセンスや保守料金/サブスクリプションでのロックインの原因となります。

Oracle ライセンスたな卸しサービス

Oracleライセンスの監査は、Oracle社のLMS(License Management Service)というチームによって実施されています。ライセンス監査対策は、LMSが実施するライセンス監査の観点で、どのような情報を使用して分析、レポート、請求されるのかを把握した上で、同レベルの管理情報を用いて、交渉が可能な精度の高い自主監査レポートを基に、交渉ポイントを理解して監査対応に当たらなければなりません。

Oracleライセンスたな卸しサービスは、LMSチームが対象とする管理メトリクスを網羅的にカバーした、精度の高い自主監査レポートを生成するためのサービスです。

Oracleライセンスたな卸しサービスにより提供される分析レポートにより、自社のライセンスコンプライアンスのポジションが明らかとなり、自主的に是正措置を実施し、コンプライアンス状態を維持することが可能となります。

[サービス内容]

1. Oracle ライセンス契約 基礎教育
2. 契約書、発注情報の分析
3. ベースラインの構築
4. ライセンス ポジション レポートの策定
5. ライセンス ポジションの分析報告
6. ライセンス運用是正アドバイス
7. ライセンス契約改善アドバイス

サービス価格

価格は、環境に導入された 全ての Oracle DB のインスタンス数を基準として設定されています。

インスタンス数	サービス価格
50 インスタンスまで	¥ 2,400,000
100 インスタンスまで	¥ 4,000,000
150 インスタンスまで	¥ 6,000,000
200 インスタンスまで	¥ 7,000,000
250 インスタンスまで	¥ 8,000,000

以下の Oracle ライセンスたな卸しサービスは、最もご要望の多い Oracle DB を対象としています。ミドルウェア、EBS は別途お問い合わせください。

詳細は下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。
お問い合わせ先：contact@spectrum.co.jp



ウチダスペクトラム株式会社

〒104-0033

東京都中央区新川1-16-14 アクロス新川ビル・アネックス

☎ 03-5543-6800 📠 03-5543-6810

✉ contact@spectrum.co.jp

お電話またはメールでお問合せください。